

# SCS集中講義「eラーニングファンダメンタル」の事例分析

## Case analysis of an SCS-delivered Intensive Lecture “E-learning Fundamentals”

鈴木克明  
Katsuaki SUZUKI

根本淳子  
Junko NEMOTO

岩手県立大学  
Iwate Prefectural University

<あらまし>本報告では、IDの基礎を扱った入門講義「eラーニングファンダメンタル」内で全受講者が行った最終レポート<sup>[1]</sup>の任意のeラーニングの事例分析を行った。分析した結果から、学習支援と動機付け設計では受講者が使用した理論・スキルが同じものに集中がみられた。事例分析に与えられた点数（20点満点）と用いた分析手法の数の相関は統計的に有意であった。

<キーワード> eラーニング、インストラクショナルデザイン、基礎論、形成的評価、事例分析

### 1 はじめに

本報告では、IDの基礎を扱った入門講義「eラーニングファンダメンタル（以下、eL基礎論）」<sup>[1]</sup>内で全受講者が行った最終レポート<sup>[2]</sup>の任意のeラーニングの事例分析を行った。eL基礎論を学習後に、受講者がどのような分析手法をしたのかを追跡し、分析に活用されやすい手法を考察する。

### 2 eラーニング事例分析

最終レポート第1問は、任意のeラーニング事例を指定された6つの視点で分析し、改善点の提案を求める問題として出された。分析対象の事例は受講者自身で選択し、集中講義で扱った分析手法（理論、モデル、チェック項目など）を実際の事例に応用できるかどうかを試す問題であった。指定した6視点とはシステム設計、コース設計、学習支援設計、動機付け設計、自己管理学習支援、その他の視点であり、その他の視点以外は必須項目であった。

任意のeラーニング事例回答者は、合計98名であった。うち、各視点で分析する時に講義で学習した分析手法などを用いて分析した人の割合は、システム設計

53.0%、コース設計55.1%、学習支援設計65.3%、動機付け設計62.4%、自己管理学習支援33.7%、その他の支援12.2%であった。表1から表6に視点1から6でそれぞれ用いられた分析手法の一覧を示す。

今回指定した視点・各設計の中でも、具体的なシナリオ設計のステップである学習支援と動機付け設計では、受講者が使用した理論・スキルが同じもの（9教授事象とARCSモデル）に集中しており、分析も詳細に渡って行っているものが多く見られた。これは、講義内でも受講者から多く反応があった部分であり、かつ、講義実施半年後に行われた追跡調査：修了者の記憶度と研修内容の有益度の結果とも合致している<sup>[2]</sup>。

事例分析に与えられた点数（20点満点）と用いた分析手法の数の相関は統計的に有意であった（ $r=0.574$  ,  $p<0.01$ ）。

### 3 終わりに

今後は、受講者が分析に使用した分析手法を、より活用しやすいようにまとめ、また、未活用の手法に関してはその理由を追及し活用されやすいようにテキストを改善したいと考えている。

表1. 視点1 システム設計

項目	人数
eラーニング類似概念 (香取,)	16
成功するラーニングカルチャー (ローゼンバーグ)	13
良くデザインされたeラーニングのメリット (ブロードベンド)	11
eラーニング傾向 (根本)	10
eラーニングコミュニティの全体像	4
研修選択のためのチェックリスト (Piskurich)	4
ADDIE モデル	4
システムのVS 伝統的アプローチでの比較	3
ALIC のeラーニングの定義	3
リー&オーエン インストラクショナルデザイン入門*	2
研修目的に応じた研修手段の効果 (Piskurich)	2
目標の明確化 (テキスト内)	2
ARCS モデル	1
テキスト全般からの引用	1
オンライン学習における足場作りのテクニック (Dabbagh)	1
EPSS の特徴 (Gary)	1
入り口を明確にするテスト	1
eラーニング開発のサイクル4段階 17 要素モデル (ローゼンバーグ)	1
プレゼンテーションが効果的に使われる画面 (Kemp)	1

表2. 視点2 コース設計

項目	人数
学習者制御とアドバイスの使い方 (クラークとメイヤー)	26
系列化 (図式化または文章化)	16
学習課題の種類	15
構造化手法 (図式化または文章化)	10
eラーニングコース開発の8ステップモデル	6
精緻化理論 (ライゲルース)	5
テキストからの引用	3
9教授事象 (ガニエ)	3
構成主義に基づく ISD 5 原則(リーボウによる)	2
マズロー「動機付け基本的欲求説」	1
トフラー第3の波	1

表3. 視点3 学習支援設計

項目	人数
9教授事象 (ガニエ)	62
学習支援設計における3要素 (Ingram&Hathorn, 2003)	9
学習成果の5分類 (ガニエ)	4
学習課題の種類	3
ドリルのメカニズム (Alessi & Trollip)	3
構成主義に基づくオンライン学習支援の要素	2
9章コラム	2
構成主義に基づく ISD 5 原則 (リーボウ)	1
マクレガー XY 理論	1

表4. 視点4 動機付け設計

項目	人数
ARCS モデル (Keller)	56
企業内教育における動機付けキーワード (ガニエ&メドック)	7
ネットワーク化の影響と ARCS モデル	1
学習の落とし穴 (クラークとメイヤー)	1

表5. 視点5 自己管理学習支援

項目	人数
オンライン学習における足場作りのテクニック (Dabbagh)	14
アンドラゴジーとペダゴジーの差異 (西岡)	7
職場が皇帝的学習環境 (PLE) が見極めるための30指標 (Tobin)	6
マクレガーXY 理論	5
遠隔教育の双方向性ルーブリック (Roblyer & Ekhaml)	5
テキスト全体	3
モニタリングと動機付けの社会・経済学理論 (Wesley)	1

表6. 視点6 その他の視点

項目	人数
ARCS モデル (Keller)	4
カークバトリック 4段階評価	4
インストラクタによる研修の長所と短所 (リー&オーエン)	2
ジャスパープロジェクト (講師の力量をどう育てていくか)	1
肯定的な相互依存性を確保する設計指針 (フーパー)	1
成人が効果的に学習を行うための7つの原理 (成人学習学 ノールズ)	1

\* テキスト外

## 参考文献

- [1] 鈴木克明・三石 大・波多野和彦・小松秀典「インストラクショナルデザインに重点をおいた集中講義『eラーニング基礎論』の内容と方法」教育システム情報学会研究会(企業内教育研究部会) 青山学院大学(2003)
- [2] 鈴木克明・市川尚・根本淳子(2004.5.)「SCS集中講義<eラーニングファンダメンタル>の評価と改善」『教育システム情報学会研究報告』19(1) 55-62.

注記:本研究は、文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2)「eラーニング基礎理論としての教授システム論の内容整理と教材化」(研究代表者 鈴木克明)課題番号 15500632 の一部である。